

学習の要点

蒙古襲来（元寇）とはどのようなもので、幕府や御家人にどのような影響を与えたのだろうか。

○蒙古襲来（元寇）とはなんだろう？

モンゴル帝国の皇帝チンギス＝ハンの孫**フビライ**が元を建国
元は日本に朝貢と服属を要求。→幕府は**要求を受け入れなかった。**
元軍が福岡の博多湾に2度襲来 ① 1274年 文永の役
② 1281年 弘安の役



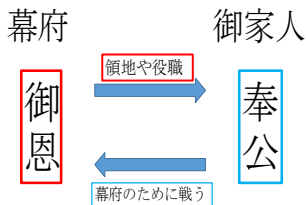
戦い方が違う



元軍の戦い方 : 集団戦法や火器・毒矢
日本の武士の戦い方 : 一騎打ち

◎武士たちは苦戦するが暴風雨の影響で元軍は撤退した。

○幕府や御家人への影響を考えよう。



御恩と奉公の関係図

幕府側（御恩）

・蒙古襲来（元寇）が防衛戦だったため新しい領地（恩賞）が無い

御家人（武士）側（奉公）

・幕府のために戦った→領地（恩賞）が欲しい

御恩（恩賞）が不十分

さらに・・・分割相続や借金で御家人の生活は苦しくなっていく

御家人たちの不満が高まる

幕府と御家人の信頼関係（主従関係）が崩れていく



今がチャンス

- ・後醍醐天皇が幕府を倒すために戦いを起こす
- ・幕府に従わない武士＝悪党を利用（楠木 正成）
- ・足利尊氏・新田義貞らの活躍により幕府滅亡

〈まとめ〉

鎌倉時代後半におきた蒙古襲来（元寇）は防衛戦であったため、幕府は新たな領地（恩賞）を得ることができなかった。領地（恩賞）が十分にもらえなかった御家人と、幕府の信頼関係（主従関係）は、次第に崩れていく。これに目をつけた後醍醐天皇が戦いを起こし、鎌倉幕府は滅亡した。